

- 1 . 調和型文明への東アジアの基盤的政策の研究

Study on Key Political Issues for Coming Harmonized Civilization

キーワード	国家安全保障、文明論、北東アジア
Key Words	National Security ,Civilization , Northern East Asia

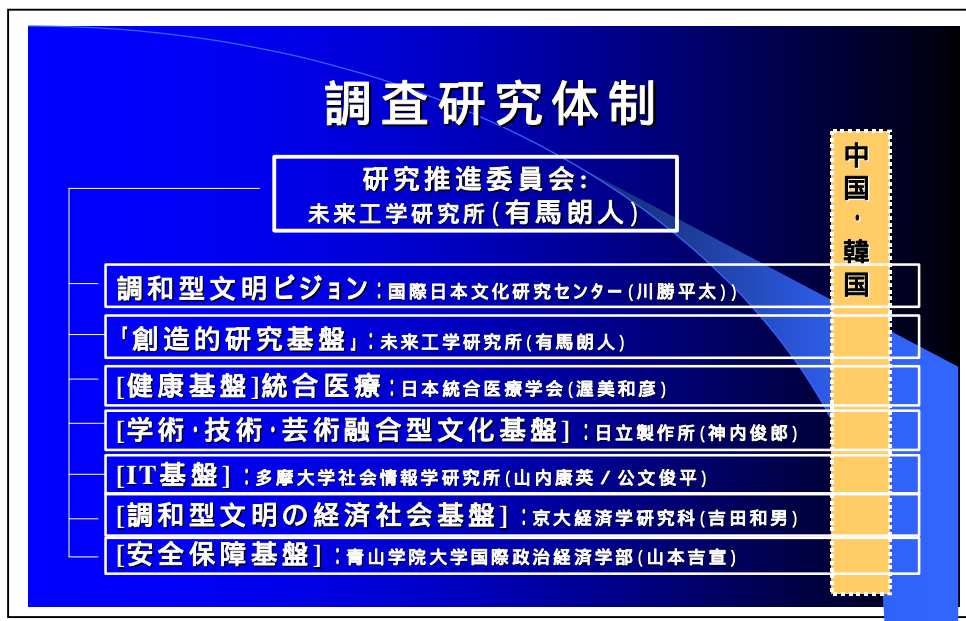
1. 調査の目的

現代科学技術の根底の一元的価値観による西洋文明(思想)は既成秩序のバランスを損ない世界の混迷を与えている。我が国は西洋文明と異なる文化的基盤から近代化を成し遂げ、多元的な文明のとりいれを体現してきた経験からも近隣の東アジア諸国と多元的調和を尊ぶ新たなパラダイム構築のための研究を行うものである。科学技術振興調整費「調和型文明へ東アジアの基盤的政策研究」の一環である。

2. 調査研究成果概要

(1) 調査内容について

調和型文明形成に資する基盤的政策として、健康医療分野における統合医療化、情報通信分野におけるデジタル技術とネットワーク技術に依拠する多元的な文化振興、エネルギー消費型経済と環境の矛盾を解きほぐすシステムや国際金融経済、東アジアにおける戦略環境において長期的な信頼醸成など、東アジアの特質を踏まえ検討を行っている。日本、中国、韓国などの東アジアの研究者・政策関係者と基盤的政策について中・長期的な観点を踏まえた共同検討を加え、調和型文明形成の東アジアモデルを想定し、国際社会に提言するもので3ヵ年計画の調査研究の本年は第2年度であり、下記分科会において検討内容の深化を行った。



(2) 個別基盤的政策に関する日本・韓国・中国の検討(ワークショップ・国際シンポジウム等の開催含む)

「多様な文化と創造性の探求」として韓国ソウルで韓国科学史学会と創造性と科学史の検討方向についてワークショップを行った。これは2006年度に京都大学人文科学研究所などの研究者を主体

に日韓科学史シンポジウムを開催しより広く深い検討につなげることも同意された。中国科学院との間においては中国科学院の科学人文論壇における研究活動の紹介がされたが、三国が科学と人文の総合的視点からの研究については、共通に取り組むための枠組みについての検討を進めている。

「学術・技術・芸術融合型文化基盤」形成検討としては韓国ソウル淑明女子大において、日本、中国、韓国研究者による高句麗古墳壁画に関するシンポジウムを開催した。(韓国文化財庁長官との政策懇談を総括として含めた)。高句麗古墳壁画は韓国のみならず日本にもその資料が豊富に遺存し、中国、北朝鮮にもまたがる文化遺跡であり、デジタル技術を媒介として学術・技術・芸術融合型文化基盤を検討するための適した材料である。韓国側からは主として高句麗古墳壁画を現代社会に応用するデジタル技術を、日本側では修復などへのデジタル技術の課題などが提起された。いずれにせよ現在、根底の共通文化基盤を検討するためには多くの障壁が存在している。

「アジアの健康基盤(統合医療)構築」については東大において日本・韓国・中国の研究者からなる国際シンポジウムを開催し東アジア 3 カ国の統合医療の現状と研究方向、課題について検討を行った。基本的に三国の現状、特に中国モデル、韓国モデルを比較検討し共通のガイドラインを作成し、共有化する方向を検討している。

「これからの経済社会基盤の展望」として東アジアの政治的基盤特に民主化度との関係、東アジア共同体構築のための経済的観点からの課題、東アジア思惟構造がこれからの経済政策に利する方向などについて検討を実施した。日本側研究者の問題設定を韓国、中国研究者に提示しその検討が進められている。

「安全保障基盤構築(信頼醸成)」として北京の中国現代交際関係研究院において日本、韓国、中国の共同研究者が集まり、東アジア全体の調和にかかわるポジティブな基盤について検討を行った。最近直面する問題として北朝鮮問題に関する六者協議とその先の問題について広範な視点からの検討がなされた。東アジアの調和と安定にとって三国の国内問題、直近する問題などが検討されたが、次いで将来的なビジョンなどの検討へ移行するための準備研究もなされた。

以上のように本研究を深化するためにそれぞれの研究グループによる研究が進められているが、研究成果のインテグレーション・ベクトルの調整、進展を図るために研究推進委員会を随時実施し全体の取りまとめを行っている。なお 2007 年にソウルで国際会議を開催し研究の総括と報告をまとめる予定である。